

# 21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部  
発行者：安藤 茂  
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当  
〒171-0011 東京都豊島区目白 2-1-1  
URL <http://www.21water.jp/>  
E-mail [info1@21water.jp](mailto:info1@21water.jp)

第8号 2009年9月15日号

## NPOの協働

理事 栗原 秀人

9月3日、大阪市下水道科学館で、関西地方に活動拠点を置くNPO日本下水文化研究会関西支部、びわ湖・水ネット、下水道と水環境を考える会・水澄と21waterの4者共同で、研究集会「下水道と地域社会～地域とつながれ下水道～」を開催した。下水道は暮らしや地域社会を支えている重要な施設だが、その役割、現状、財政などを理解いただくための「見える下水道」とするにはどうしたらいいのか。一方、下水道の施設や資源を地域づくりに活かすこともできる。千葉市、神戸市、八尾市の先進的な取り組みを紹介しながら、下水道管理者と市民がいかに協働したら良いかなどについて総勢100人ほどで討論を行った。



昨春に東京で開催した「下水道事業と地域活動」の続編で、当初は関西から呼んで事例発表できないか程度の話だったが、大阪府からいっそ関西で開催できないかとの強い要請があり、まずは府市等から紹介していただきながら、共催してくれるNPO探しから始めた。先がなかなか見えず途中まではかなりの苦勞をしたが、ある程度の形が出来上がってからは関西のNPOに大いに助けられた。特に水澄は、さすが地元大阪市のOB達、即戦力の実行部隊として機能してくれ、21waterから相当な人的投入が必要ではないかとの当初の懸念は取り越し苦勞に終わった。また、今回ほどインターネットの便利さ感じたこともなかった。現地での打ち合わせは一回だけ、企画、構成、役割分担、出演者とのやり取り等も全てメールで済ませた。

今回、国交省、滋賀県、大阪府、兵庫県、千葉市、大阪市、

八尾市、神戸市の後援と大阪市下水道技術協会の協賛をいただいたが、各組織に通じた共催NPO会員のご尽力に感謝する。研究集会の位置づけ、集客力、発信力のアップに繋がったことはもちろんだが、申請手続きを通じて、NPOの活動を各方面に直接説明し、ご理解ご協力をいただけたことに大きな意義を見出したい。会は、①暮らし・川・街と下水道をつなぐ ②分野をつなぐ ③人をつなぐ ④地域をつなぐ ⑤世代（時代）をつなぐ ⑥皆でつなぐ の6つの「つなぐ」で総括された。討論では「今回の参加者は、NPO会員や公共団体職員が大半、より広範な人や老若男女をつながなければいけない」、「つなぎ役としてのNPOの役割と責任は？」などの大切な指摘もされた。4つのNPOの共催という試み、懇親会にも60名を超える参加があり大いに盛り上がり、まずは成功だったと思っているが、さてさて次回をどうするか、新たな悩みが生じる。ともあれ、「全ては人の縁、人の和」を強く感じながら、お世話になった多くの関係各機関、関係の皆様へ厚く御礼を申し上げます。「ありがとうございました。」

21waterの活動を活発化し、設立の目的を全うしていくためには、関連するNPOとの協働が重要になると考えており、巻頭言の話題として取り上げたが、次号には詳細な活動報告が予定されている。

## 2009年度活動報告

### 研究集会「下水道の海外展開キーポイント」報告

阿部 恭二

当倶楽部主催の研究集会「下水道の海外展開キーポイント」が7月7日、東京・新宿区の(財)下水道新技術推進機構において52名の参加者を得て開催されました。





安藤理事長による開会挨拶の後、下水道グローバルセンターの佐伯謹吾事務局長が「動き出した下水道グ

ローバルセンター、取り組みと展望」、海外水循環システム協議会の伊藤真実運営委員長が「海外水循環システム協議会の取り組みと海外展開の重要ポイント」、エヌジェーエス・コンサルタンツの竹内正善社長が「海外展開におけるコンサルの役割—事例を踏まえて—」をテーマとして、それぞれ20分ずつ講演を行いました。それぞれの講演では、水循環に関わる海外協力活動や海外展開の動きが活発化している中で、最新の情報とともに、現場で直面する課題などが紹介されました。

引き続き、GCUSの方針決定メンバーでもある日本下水道事業団の堀江信之事業統括部長をコーディネーターとして、約1時間の総合討議が行われました。この総合討議では、海外展開における運営管理や人材育成の難しさ、日本のコンサルに求められる柔軟性などの問題点も浮き彫りになりましたが、「今ほど水ビジネスに追い風になっている時もない。この機会にさらにステップアップをしていきたい」などの力強い発言もありました。

なお、この研究集会の詳細は、当倶楽部ホームページに報告書が掲載されていますので、そちらをご覧ください。

## 木更津干潟見学会報告

亀田 泰武

アサリは東京湾の生物を代表するといっていでしょう。江戸前水産物の一つであるアサリは昔から潮干狩りの対象であり、数多く生息していました。昭和二十年代の子供の頃、親に連れられて検見川浜に潮干狩りにいきました。総武線の外側すぐに広大な干潟が広がっていて、潮干狩りはアサリが主でしたが、バカ貝、潮吹きなどもけっこういました。数は少なかったのですが、はまぐりも少し取れました。

しかし埋め立てなどによる浜辺の減少、水環境の悪化などで姿が見られなくなりました。昭和50年代、子供を連れて

遠くの盤州干潟まで潮干狩りに行ったところ、アサリの数が少なく、漁協の人にどうしたら採れますかと聞いたところ、一つ採れるとその周りにいるということでした。シャベルで撒いているのでそういういいかたになったと思います。東京湾の環境保全をどうするかということに取り組んでいて、実際に現地を見なければということで、干潟見学会を5年前からはじめました。わずかに干潟の残っている、多摩川河口、三番瀬、盤州干潟に夏に出かける会を企画しています。昨年からは経年変化を見るため、過去とできるだけ同じような場所に行き始めました。

今年は2006年にアサリだけだった盤州干潟南端の木更津海岸がどうなっているか、大潮である7/25(土)に、計画しました。9人の参加を得ました。天気予報では曇りでしたが、薄曇りで太陽光の力が強く、参加者に顔や手、首筋の日焼け対策は徹底しましたが、足に気が付かず、けっこう赤くなって風呂で少し痛い思いを。

当日、南西風が非常に強く潮が引くのが気がかりでしたが



けっこう沖の方まで行くことができました。1400円の潮干狩り場入場券を購入し、岸近くではアサリなどの稚貝がいましたが、その後沖の方に移動する途中、バカ貝の稚貝はけっこういるものの、アサリは殆どいませんでした。前回あんなにいたのにどこに行ってしまったのでしょうか。岸から600mくらいの北側にもシオフキは見られたもののアサリは殆どなし。南側のコアモモの生えているところまで行ったところ、アマモの生えている間の露地にある程度いました。前回のよう熊手一かきで10個にはほど遠く、二かきくら



いで一個という程度。せつかくとれたアサリの中に死んでいるものが通例よりも多かったこと、砂抜きのため塩水につけたところ粘液の放出が多かったことなどが気になります。ただ味は良好でした。2007年に大発生したアサリの殻内に入り込んで栄養分を横取りするカイヤドリウミグモには遭遇しませんでした。

北の金田海岸も去年と同じく自生のアサリはあまりいないようです。むしろ2006年の大発生でアサリに何がよかったのか探求するのが良さそうです。



東京湾のように沿岸の大部分が埋め立てられ、工場や港の護岸に

なっているところこそ、豊かになった今、先進国として生物が豊かな環境をつくらなければいけませんし、これは十分実施可能であると考えます。

詳細はHPに掲載の盤洲干潟見学会報告書をご覧ください。

### 列車トイレだより（講師派遣）

清水 洽

「下水道なんでも」の清水です。一昨年より皆様からの情報を基にして列車とトイレを書いております。ホームページを見ていただければ海外における列車トイレの情報を見ることが出来ます。

その一環として、6月18日（木）18:00-21:00、東京・新宿のTOTO新宿ショールーム・会議室において日本トイレ協会と日本下水文化研究協会主催による第56回尿尿・下水研究会で「列車のトイレ」講話をさせていただきました。内容はホームページ掲載の「日本の列車トイレ変遷」です。明治5年、新橋—横浜間鉄道開設時のトイレ設備のない問題から、昭和30年以降の列車トイレからの汚物垂れ流しによる黄害問題、昭和38年新幹線開業に始まる循環式トイレの汚物貯留方式、平成15年から採用された真空式トイレまで、パワーポイントにより列車写真を中心に講演いたしました。一般市民の方を含めて「洋式トイレが取り入れられ

たのは何時頃からか？ 在来線車両にトイレトペーパーが設置されだしたのは何時頃から（新幹線には開業時から設置されています）など活発な討議が出来ました。

もし海外での列車トイレの情報があればそのコメントと一緒に写真をお送りください。情報提供いただいた人の名前とともに「下水道なんでも」のホームページにご紹介いたします。今までイタリア、スイス、中国、スペイン、オランダ・ベルギーを掲載しております。今回はモロッコと列車トイレシステムを製作している榎五光製作所見学記です。

## 会員だより

### 鉄道写真展のご案内

清水 洽

大阪弁天町の交通科学博物館で開催される写真展「鉄道のある情景」を紹介いたします。この写真展は毎年9月に20日間ほどJR西日本の交通科学博物館で開催されています。京都大学鉄道研究会OBが中心に、学生時代の思い出の写真から現状の鉄道写真まで約60点程度が展示されています。

私もこのポスターと「旧博多駅の特急かもめ」の2点を提供しています。



- ・会場 交通科学博物館 企画室 JR大阪環状線「弁天町」駅すぐ
- ・期間 9月5日（土）～27日（日）（21日（月・祝）は開館、7日・14日（月）は休館）
- ・時間 10時～17時30分（入館は17時まで{27日の展示は15時まで}
- ・入館料 大人（高校生以上）400円/子供（4歳以上）100円
- ・企画・主催 京都大学鉄道研究会写真展実行委員会

## メーカードラマな高校野球・甲子園初出場

林 正生

会員の皆さんお元気でしょうか？

私、水倶楽部のセミナー等の参加はあまりできませんが、



今回、地方の話題として富山から高校野球について発信させていただきます。今年の夏、私は高校野球の観戦の日々を過ごしていました。

私の甥が、富山県地方大会でノーシード校のキャッチャーとして勝ち進み、優勝し、甲子園へ出場しました。

高校名は、南砺総合福野（なんとそうごうふくの）高校で、1894年（明27）農業学校として創立され、創部89年の歴史で春夏通じて初めての甲子園出場です。部員数は28人と甲子園出場校の中ではもっとも少なく、富山県地方大会では全員野球で6試合中5試合を逆転勝ちし、54校の頂点に立ちました。

7/19から富山地方大会が始まりましたが、全国では天候不順の日々が続いたように、富山も雨の中の試合が多くなりました。その中で、富山地方大会準々決勝では、桜井高校（シード校）戦は、9回裏の最後の守りで雨が激しくなり、試合は4時間半の中断し、再開後1点差で勝利を収めたことがありました。

決勝戦の高岡商業高校（昨年覇者）では、8回裏までに1-4と劣勢に立たされましたが、9回表に4点を挙げ5-4と逆転勝ちし、甲子園の切符を手にしました。私は、決勝戦の当日は下水道研究発表会と重なり、球場へ観戦に行けませんでした。甥が優勝して喜ぶ姿を東京のテレビで見たときは、とても感激しました。

甲子園では、2日目（8/9）の第4試合、強豪天理高校との試合に決まりました。



しかし、試合当日9日翌10日は、台風等の影響により兵庫県佐

用町では水害で多大な被害が起き、甲子園では、第1試合の高知高校と如水館高校との試合が、過去にない2日連続ノーゲームになりました。また、富山からの甲子園応援バス約60台は、甲子園に向いましたが、中止によって2日連続途中で引き返すことになりました。

順延で8/11に天理高校との試合が出来ましたが、チームの状態は、グラウンドでの実戦練習不足等で試合に臨む調整が不十分でした。試合は、初の甲子園で観客4万人の声援にのみこまれ、富山地方大会全6試合で3失策の守備が5失策と乱れ、1-15の大差で負けました。

甲子園では今までの力が十分発揮できなかったことが悔いに残りますが、部員数28名でノーシードから地方大会を勝ち上がり、チームが一丸となり全員野球が出来たことは、甥しか味わえない高校生活で素晴らしい思い出だったに違いありません。また、高校3年間キャッチャーとして怪我なく野球が続けられ、甲子園出場等で得た数多くの経験は、今後の人生にきっと役立つことになることと思います。

今年の夏は、例年に比べ雨が多く日照時間が少ないことを体感し、秋以降に出荷される作物等の不足が経済に与える影響がないことを願い、今回の話題とさせていただきます。

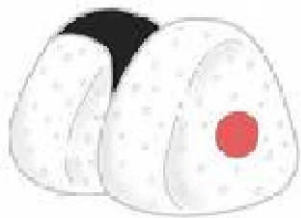
## 酔直感話 第3話 おにぎり爆弾！

伊達 萩丸

ソマリア沖の海賊退治に、海上自衛隊の護衛艦を主力とした部隊が出動している。なにか、根本的な事が間違っているのでは？ 海賊の人達は、「食う物が無い」から、仕方なく海賊をしているのであって、「食う物がある」ならば、海賊などわざわざ危険行為はしないし、日本風に言えば、「衣食足りて礼節を知る」という所？ つまり、日本の自衛隊に求められているのは、海上船団の護衛をして海賊を追っ払う事ではなく、空から「食料」を絨毯爆撃の如く落とす事じゃないかな？ その爆弾に全部日の丸と「日本から食べ物」とソマリア語で書いて置けば、ソマリアの人は海賊に行かないで、日の丸をつけた飛行機が、「食べ物爆弾」を落としてくれるのを空見上げて待つようになる！



まず、話変わり、日本の農業事情。減反政策で、水田放棄する人がたくさん出てきた。「農地転用」を無断で行うことは禁止されているから、放棄された水田は荒地と化す。しかも少子状態+高校生位未満の人はパン主食が多い。萩丸は朝飯に「米」を食べないと10時過ぎにガス欠、頭が回転しないけど、超新人類は違うらしい。「お菓子が主食」のタレントも居るし、それが珍しく無い時代。とにかく、米消費量が減ったので、減反して需給バランスが取れたというのは皮肉か？ 現在、米作り農家の人達の後継者難もあり、日本で唯一自給できる米も輸入に頼る？ いや、日本人が米を食わない文化になる事？



話が混乱したが、農業振興と米作の為、まず食糧管理制度を復活させ、農家のステイタスを上げ、現在遊休農地になっている水田でガンガンお米を作り、さらに日本

の誇る工業力で、おにぎりをどんどん作るのだ！ そう、ソマリアに向けたODAで！

まあ、おにぎり生産工場は現地に近いクウェートやUAEに作り、そこから航空自衛隊の輸送機へおにぎり満載、ソマリアへ飛び、「これは食べ物」とソマリア語でパラシュートに書き、日の丸をつけ、おにぎり絨毯爆撃をするのだ！ そうすれば、ソマリア人もわざわざ海賊に出る必要は無いし、おにぎりはパンと違い水気があり、中に具も入っている。のどが渴いていてもある程度食べられる。ソマリア語で「Onigiri」と言ったら、「おにぎり」の事を指す位にすれば、世界的な海賊の迷惑事情、日本国内の農業政策、日本の国際立場など全て大分良くなるんじゃないかな？

以上第3話終。次回は「天然ガスを使おう！」の予定。感想・意見・反論は正論広場へ、投稿待ってます(^\_^)☆。

## お知らせ

- ・ 10月20日(火)に研究集会「湖沼水質の保全と下水道」が開催予定です。詳しくは事業スケジュールの頁をご覧ください。参加申込みは参加登録送信フォームから

## 編集幹事のあと整理

- 巻頭文は栗原理事の「NPOの協働」です。9月3日に大阪市にて開催にこぎ着けた研究集会「下水道と地域社会」の意味するところ、四者NPOの協働の意義を熱く訴えておられます。
- 会員だよりのコーナーがにぎやかになってきました。連載四回目となる齋藤会員に加え、遠方の富山在住の林会員、そして常連の清水会員からは趣味の列車に関する情報など
- 会員だよりのコーナーへの投稿を大歓迎します。随時、編集幹事・望月あてメール添付で文と写真をお送りください。直近号に掲載させていただきます。
- 巻頭文を含め、活動報告を四点いただきました。巻頭文で紹介の行事は次号で活動報告文をいただく予定です。
- 後三点の研究集会、見学会、講師派遣の報告文中のリンク先では詳しい内容がご覧いただけます。

編集幹事・望月